

**\* NOTICES \***

**JPO and NCIPI are not responsible for any damages caused by the use of this translation.**

1. This document has been translated by computer. So the translation may not reflect the original precisely.
- 2.\*\*\*\* shows the word which can not be translated.
3. In the drawings, any words are not translated.

---

**CLAIMS****[Utility model registration claim]**

[Claim 1] The toy of operation characterized by having the following requirements.

(b) An animal, By external stimulus which is different in the toy which constitutes the shape of a doll At least two sensor switches which operate preparing (\*\*) -- at the time of actuation, while motion control of preparing [ the device of operation in which the predetermined part of the above-mentioned toy is operated, and the speech generation device ]-in actuation circuit of two above-mentioned sensor switches (Ha) one above-mentioned sensor switch is carried out, the above-mentioned device of operation The voice in which the above-mentioned sensor switch of uttering [ predetermined voice ]-from above-mentioned speech generation device (d) another side completely differs from the above-mentioned voice from the above-mentioned speech generation device at the time of actuation while the above-mentioned device of operation carries out a halt of operation is generated.

---

[Translation done.]

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) **公開実用新案公報 (U)**

(11)実用新案出願公開番号

**実開平5-29596**

(43)公開日 平成5年(1993)4月20日

(51)Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	府内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 3 H 13/02	Z	7318-2C		
3/02		7339-2C		
3/33	C	7339-2C		
29/22	B	9012-2C		
30/02	B	9012-2C		

審査請求 未請求 請求項の数1(全3頁) 最終頁に続く

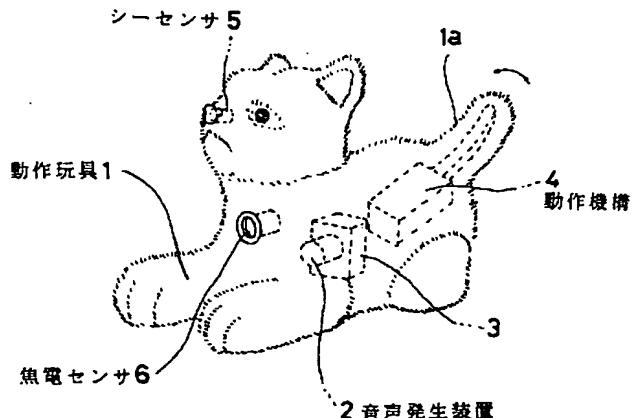
(21)出願番号	実願平3-86799	(71)出願人	000132998 株式会社タカラ 東京都葛飾区青戸4丁目19番16号
(22)出願日	平成3年(1991)9月29日	(72)考案者	大西 宣雄 東京都葛飾区青戸4丁目19番16号 株式会社タカラ内
		(72)考案者	久世 佳代子 東京都葛飾区青戸4丁目19番16号 株式会社タカラ内
		(72)考案者	神田 修一 東京都葛飾区青戸4丁目19番16号 株式会社タカラ内
		(74)代理人	弁理士 濑川 幹夫

(54)【考案の名称】 動作玩具

(57)【要約】

【目的】 本物に近い動作を得られるようにする。

【構成】 動物状を成す玩具本体1の鼻部にシーセンサ5を、首部に焦電センサ6をそれぞれ設ける。そして、上記二つのセンサスイッチの作動回路に音声発生装置2と動作機構4とが設けられる。



## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 下記要件を備えることを特徴とする動作玩具。

(イ) 動物、人形状を成す玩具に異なる外的刺激によって作動する少なくとも二つのセンサスイッチを設けたこと

(ロ) 上記二つのセンサスイッチの作動回路には上記玩具の所定個所を動作させる動作機構と音声発生装置とが設けられていること

(ハ) 一方の上記センサスイッチが作動時に上記動作機構が動作制御されるとともに、上記音声発生装置から所定の音声が発せられること

(二) 他方の上記センサスイッチが作動時に上記動作機

構が動作停止させるとともに、上記音声発生装置から上記音声とは全く異なる音声が発生されること

## 【図面の簡単な説明】

【図 1】本考案に係る動作玩具の斜視図である。

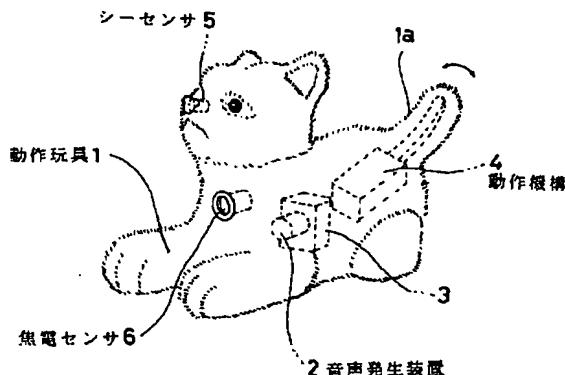
【図 2】動作機構及び音声発生装置の作動を示すブロック図である。

【図 3】図 2 におけるタイミングチャート図である。

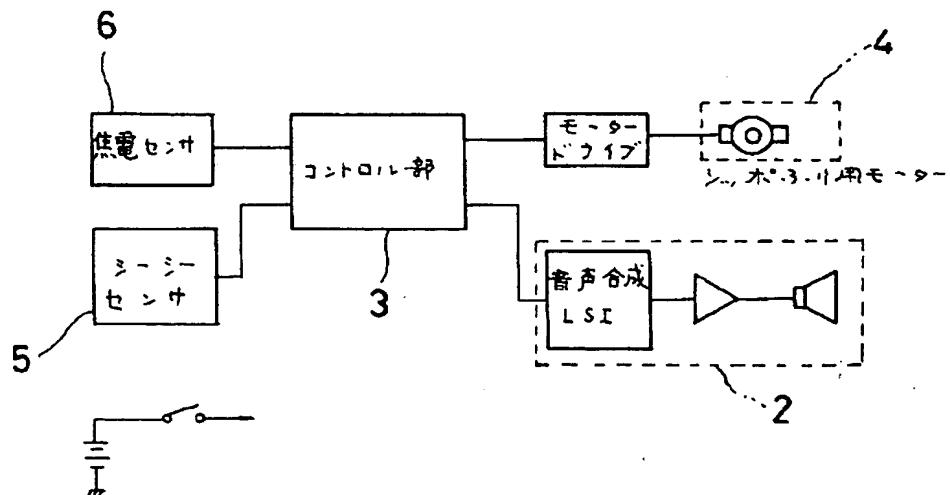
## 【符号の説明】

- 1 動作玩具
- 2 音声発生装置
- 4 動作機構
- 5 シーセンサ
- 6 焦電センサ

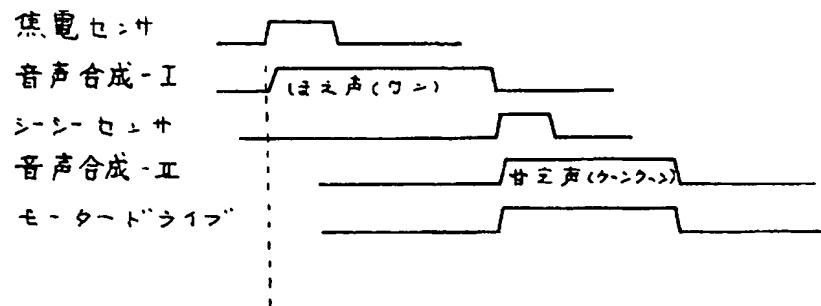
【図 1】



【図 2】



〔圖3〕



## フロントページの続き

(51) Int. Cl. 5

G 10 K 15/04

識別記号 庁内整理番号

392 F 7227-5H

F I

技術表示箇所

**【考案の詳細な説明】****【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は玩具の一部を動作させ且つ音声を発する動作玩具に関する。

**【0002】****【従来技術】**

従来、動物、人形状を成す玩具は動作しないのが常識であった。また、動作するものにあっては直接手に触れて行なっていた。さらに、動作と連動し音声を発するものはなかった。

**【0003】****【考案が解決しようとする課題】**

ところが、最近このような玩具にあって、より本物に近いものを得ることができるもののが望まれるようになってきている。

**【0004】**

本考案は上記の事情に鑑みてなされたものであって、特により本物に近い状況を得ることができる動作玩具を提案することをその目的とする。

**【0005】****【課題を解決するための手段】**

上記課題を解決するための手段として、本考案に係る動作玩具は、下記要件を備えることを特徴とする。

(イ) 動物、人形状を成す玩具に異なる外的刺激によって作動する少なくとも二つのセンサスイッチを設けたこと

(ロ) 上記二つのセンサスイッチの作動回路には上記玩具の所定個所を動作させる動作機構と音声発生装置とが設けられていること

(ハ) 一方の上記センサスイッチが作動時に上記動作機構が動作制御されるとともに、上記音声発生装置から所定の音声が発せられること

(ニ) 他方の上記センサスイッチが作動時に上記動作機構が動作停止されるとともに、上記音声発生装置から上記音声とは全く異なる音声が発生されること

**【0006】**

### 【考案の作用、効果】

上記構成のように、本考案に係る動作玩具によれば、一方のセンサスイッチが作動したときに動作機構を介して玩具の所定個所を動作させることができるとともに、音声発生装置から所定の音声を発生させることができる。また、他方のセンサスイッチが作動したときに上記動作機構を停止させるとともに、上記音声発生装置から上記音声とは全く異なる音声を発生させることができる。

### 【0007】

具体的には、例えば玩具をぬいぐるみの犬様に形成するとともに、該玩具に尻尾を動作させる動作機構と音声発生装置を設け、また二つのセンサスイッチの一方を焦電センサ、他方をシーセンサ（音圧センサ）とすることで、人が近付いたことを焦電センサが感知したときに音声発生装置から「ワン」と発生させるとともに、動作機構で尻尾を振り続けさせる。この状態で人が「シー」と言うとそれをシーセンサ感知し上記音声発生装置から甘え声「クーンクーン」と発生した後鳴き止み且つ上記動作機構が停止し尻尾の動きが停止する。したがって、より本物に近い状況を作り出すことができる。

### 【0008】

#### 【実施例】

以下、図面によって本考案の実施態様の一例について説明する。

### 【0009】

図1において、符号1は本考案に係る動作玩具を示し、該動作玩具1はぬいぐるみの犬様に形成されるとともに、その内部には音声合成LSIから成る音声発生装置2とマイクロコンピュータから成るコントロール部3と尻尾1aを動作させるモータを駆動源とする動作機構4とが設けられている。また、上記動作玩具1の鼻部には音圧を感知して作動するシーセンサスイッチ5が、首部には遠赤外線を感知する焦電センサスイッチ6がそれぞれ設けられている。

### 【0010】

モータを駆動源とする上記動作機構4は動作玩具1内の尻部から尻尾にかけて配設されるとともに、上記動作機構4が作動時に尻尾1aを動作するように形成されている。なお、動作機構4は従来公知のものを利用すればよい。例えば実願

平2-402886号に記載されたものなどがある。

【0011】

動作玩具1は上述のように構成されているので、その使用にあたっては、人が近付いたことを動作玩具1の首部に設けた焦電センサスイッチ6が感知すると、該動作玩具1内に設けたコントロール部3から音声発生装置2に所定の泣き声「ワン」を発生させるための信号を出力する。同時にモータードライブを介して動作機構4の駆動モータを所定の速さで回転させるための信号を出力し、これによって動作玩具1の尻尾1aを動作させる。

【0012】

次に、人が上記動作玩具1に向かって「シー」と発したときに鼻部に設けたシーシーセンサスイッチ5がそれを感知すると、上記コントロール部3から音声発生装置2に上記泣き声とは別の泣き声「クーンクーン」と所定時間発生させるための信号を出力する。同時にモータードライブを介して動作機構4の駆動モータの回転を停止させるための信号を出力し、これによって動作玩具1の尻尾1aの動きを停止させる。

【0013】

上述のように動作玩具1によれば、人が近付いたことを焦電センサスイッチ6が感知することによって音声発生装置2から「ワン」と発生させるとともに動作機構4により尻尾1aを振り続け、また、人が静かにさせるために「シー」と言うとそれをシーシーセンサスイッチ5が感知し上記とは別の泣き声「クーンクーン」と所定時間発生させるとともに、尻尾1aの振り動作を停止させることができる。したがって、より本物に近い動きを楽しむことができる。